

【作品タイトル（仮題）】

むつつりドスケベロリシスターのオス媚びチンイラ逆懺悔♡（純愛もの）

【登場人物】

「リタ＝ローシス」 C.V.みもりあいの様（予定）

一人称…… 私

設定 …… シラルト村に住む、カラスト教会の修道女見習い。

一人前のシスターになるため日々を真面目に過ごしているが、

元々は教徒である両親に半ば無理やり修道女にさせられたため、

神の存在をそもそもあまり信じていない。

それに加え、物心がついてきたことで、

教会の教えに疑問を抱き始めている。

清楚な物腰や口調とは裏腹に、脳内は性的な妄想でいっぱい。

おなにーだいすき。

【主人公】

ロリコン。

トラック1 プロローグ

■教会

／正面・中　トラック終わりまで位置固定

お兄さん（主人公）が教会に告解をしに来るシーン

あ、お兄さん

おはようございます

どうされましたか？

ミサは明日ですが――

――はい？

告解、ですか？

う、うーん…

い、いえ！

過ちを繰り返さないよう、自らの罪を自戒するのは
素晴らしいことです

でも今日は、司祭様が多忙で――

／＼「じゃあ、リタちゃんに告解するのはダメかな」と言われて

――へ？

わ、私っ!?

だ、ダメですよっ

私はただの修道女、それも見習いの身ですっ

神より権能を授かっていない私には

そんなことできませんよっ！

明日のミサの時であれば司祭様もいらっしゃいますし

そちらで行ってもらえれば――

／＼「でも、どうしてもリタちゃんに懺悔したくて…」と言われて

――わ、私に、どうしても…？

で、でも、私では、お話を聞くくらいはできても

赦しを与えることはできませんよ…？

――神にではなく、私に懺悔をしたい…？

それは、どういう――

――私に対する、罪…？

んう…？

何のことでしょう…？

私にはさっぱり――

／＼頭を下げてください

――あわ、わかりました、わかりましたから

そんなに頭を下げないでくださいっ

は、はい

そこまで言うなら、お話を聞くだけでしたら…

で、でも、あくまで私が個人的にお話を聞くというだけで

たとえば私がその罪を許しても

神が赦すわけではないですからね

必ず、司祭様にも告解してくださいよっ

／＼落ち着きを取り戻して 『陽落ちの刻』は午後6時頃です

では――そうですね

ひおちのこく
陽落ちの刻を過ぎた頃、

私がお兄さんのお家に向かわせていただきます

はい、お兄さんの家の場所なら知っています

お兄さんも、他の方に聞かれない方がいいですよね？

はい、お話はそこで聞くことにします

ちよっと修道院を抜け出すだけなら

誰にも気付かれませんか、私は大丈夫です

はい

では――また、夜に

トラック2

■場所ー お兄さんの家・リビング

SE:机にコップを置く

／正面・中 指示があるまで位置固定

すみません、お茶までいただいちゃって…

／「こちらこそ、来てくれてありがとう」的なことを言われ

い、いえいえ、とんでもないですっ

お昼にも言った通り、私はお話を聞きにきただけで
司祭様のように赦しを与えることはできませんから
だから、そんなに畏まらないでくださいっ

ふう…

それでは、本題に入ってもいいですか？

私に対して、何か懺悔をしたいということでしたが

一体何の――

SE: ガバっと土下座

//驚いて

ふえっ!?

ち、ちよっ、お兄さんっ!?

顔を上げてくださいっ

まだ、まだ何も聞いてませんっ

――ふえ？

え、えっちな、こと…？

ち、ちよっと待ってください

順序立てて話していただけませんか…？

//お兄さんの話を聞く

途中で「リタちゃんに欲情する」的なことを言われて驚く

…はい

はい——はい、はい…

——はひっ!?

は、はあ、はい…な、なるほど…

簡単に言つと…

私のような小さい女の子に対して——と、というか——

私に対して、劣情を催してしまう、と…

う…面と向かって言われるのは

流石にちょっと…恥ずかしいですね…

えと、ちょっとだけ確認したいんですが…

小さな女の子に劣情を催すのは

いけないことなのでしょうか…?

い、いえ、だって、司祭様も

私や、他の修道女見習い達に対して

よく、小さくて可愛いね、と——

それとは、違う…？

で、でも…

う…わ、わかりました

とりあえず顔を上げてくれませんか…？

SE：顔を上げる衣擦れ

—はい…

今のお話ですが…

…私は、懺悔することではないと、思います

た、確かにカラスト教では

児童との性交渉は禁じられていますが…

でもお兄さんは、そういったことを考えたとしても

行動に移すわけではないのでしょうか？

湧き上がる劣情に耐え、その欲に罪の意識すら覚えているのなら

私はむしろ、立派だと思います

それに――そ、それにっ

もう一つ大事な理由があつて…

／＼恥ずかしそうに

…っ

その、わ、私のような小さい女の子も同じで

大人の男の人で、そういう気持ちになっちゃいます、から…

も、勿論、誰に対してもってわけじゃないんですよっ

ただ、その…

た、例えば、お兄さんが私に劣情を催してたように

わ、私も、その――

――お、お兄さんでそういうこと、考えたこと、ありますし…

…それとは、全然違う？

ち、違いますようっ

むしろ、女の子がそついうこと考えちゃう方が

変っていうか…

//しつこく懺悔しようとするお兄さんに、可愛くぶんすか

あ、う、も、もうっ

謝らなくていいって言ってるのにっ

お兄さんがそんなに懺悔したいなら

もう好きにしてくださいっ

その代わり――

わ、私も懺悔、しちゃいます、から

私もお兄さんも同じなのに

お兄さんだけ懺悔するなんて、不平等ですからっ

そういついごとで――

SE：抱きつく

//一行目で、しなだれかかるように抱きついて、

ゆっくり「左・密着」へ移動 指示があるまで吐息多めな有聲囁き

ん――

えへへ……♡

抱きついちゃいました…♡

あったかい、ですね…♡

／＼勃起に気づく

あ――

えへへ、お兄さん…♡

私にぎゅーって抱きつかれて、ズボンのここ――

――おちんちん、ちょっとだけ膨らんじゃってますよ…♡

／＼行目で「正面・密着」へ移動

出しますね…？♡

SE：慌てる感じの衣擦れ

わうっ…そ、そんなに慌てないでください

だって本当は、こうして欲しいんですよ…？♡

確かに、児童との性交渉は禁忌かもしれませんが…

お互いに合意を得ていれば、いいんじゃないかなって
私、最近思うようになって――

それに何より、シスターにとって一番大事なのは
奉仕の心、ですから…♡

脱がして、いいですよね…♡♡

んふふ、はい――♡

ん――しょ、んっ――

SE:ズボン脱がす

//初めて生で見た男性器に、メロメロに発情した感じで

――つつっ♡

お、おちんちん――本物の、おちんちん…っ♡

え、えへへ、へへ――♡

これ、じこじこすると、いいんですよ…♡♡

じゃあ――

SE：手〇キ

んっ…ふっ…んっ…

お兄さんのおちんちん、熱くて、おっきくて――

おちんちんを扱くのって、思っていたより大変なんです…♡

じゃあ私――

懺悔、しますね…？♡

／＼行目で「右・密着」へ移動

あまあま媚び媚びな声で、ゆっくりねっとり話す

トラックの終わり際の指示まで、話す速度はゆっくりのまま

ふふ――♡

お兄さん、ごめんなさい…♡

私、お兄さんで、その――

――え、えっちな気持ちに、なっちゃうんです…♡

えへへ…えっちな気持ち、ですよ…♡

私、お兄さんのことを沢山考えて

女の子の一番大事な所、うずうずさせちゃってたんです…♡

お兄さん、私がお買い物をした帰り道に

よく声をかけてくれたり

荷物を持って一緒に帰ってくれたりしますよね…?♡

お兄さんは知らないと思いますけど—

私、あの後、修道院の自分のお部屋で

おなにー、しちゃってたんですよ…♡

優しいお兄さん、すきすき—♡

あのおっきな体で抱きしめられたいなあ…♡

あのごつごつした手で、あそこほじほじされたいなあ…♡

—って、そんなことを考えながら…

自分のお股に手を伸ばして

気持ちよくなっちゃってるんです…♡

ごめんなさい…♡

私、こんなことばかり考えちゃう、

とってもダメなシスターなんです…♡

もし、私がシスターじゃなかったら

お兄さんと恋人になれたりしたのかなあ…♡

恋人になったら、毎日えっちしてもらえるのかなあ…♡

／＼無声囁き

お兄さんのおちんちん、どれくらい大きいのかなあ…♡

私のおまんこに入るのかなあ…♡

／＼1行目で「正面・密着」へ移動

指示があるまで吐息多めな有声囁き

…へへ♡

実は私、さっきちょっとだけ――

嘘…ついちゃったんです…♡

さっき、大人の男の人で、えっちなことを考えちゃうって
言っちゃったんですけど…

あれ、ちよっただけ嘘で…♡

本当は、お兄さんで、えっちなこと、考えてたんです…♡

お兄さんでしか、考えたこと、なかったんです…♡

／＼行目で「左・密着」へ移動

えへへ…♡

ごめんなさい…♡

私、本当はずっと…

お兄さんに懺悔しなきゃいけなかったんです…♡

お兄さんはいつも優しくしてくれるのに

私はお兄さんのこと…

おなにーのおかずみたいに見てたんです…♡

お兄さんをおかずに…おまんこ…気持ちよくしてたんです…♡

優しく笑いかけてくれるお兄さんのお顔に跨って…

おまんこを擦り付ける妄想をしながら――

おまんこの入口を、なで、なで…♡

優しい声を聞かせてくれるお兄さんのお口で

おまんこの中を舐められる妄想をしながら

おまんこの中、ぬる、ぬる…♡

私、お兄さんと比べてすっごく背が低いから…

お話ししてる時に少し視線を下ろすと…

自然と、お兄さんのズボンの—

—股間の所が、目に入っちゃうんです…♡

この中に、お兄さんのおちんちんがあるんだーって、考えて…

お兄さんのおちんちんで

おまんこを奥まで犯される妄想をしながら…

指をできるだけ奥まで入れて—

くちゅ…くちゅ…♡

いく…いくう…♡

おちんちん、舐めてみたいよーって妄想しながら

自分の指を、口に咥えて——♡

／／耳舐め

んあ——はむっ

ちゅる、じゅるる、れうれう、ちゅっ…♡

んちゅ、ぢゅづづづっ、ぢゅるるるっ…♡

んっんっ、うあれろ、じゅるるっ、ちゅむるるっ…♡

んちゅ、じゅっじゅ、んんむっ、れうれう——♡

んちゅる、じゅう、むぢゅちゅちゅ、じゅっる…♡

ん、ちゅっ——じゅるるっ…♡

んっんっ——れう、ちゅっ…♡

じゅるる、れうれうれう、んちゅ、ぢゅっ、じゅるっ…♡

——ぷはぁっ

／／一行目で「正面・密着」へ移動

指示があるまで吐息多めな有声囁き

へへ…♡

勘違い、しないでくださいよ…？♡

私が、際立ってえっちな子って訳じゃ、ないんですから…♡

修道女は皆、その身の純潔を誓った者——♡

私以外のシスターの皆さんだって、

本当は身体が寂しくて仕方ないんです…♡

／＼行目で「右・密着」へ移動

だからあ——

シスターにとって、自分のお部屋というのは——

——オナ部屋、なんですよ…♡

皆さんに、お部屋で何してますか——って聞いてみたら

聖書を読むとか、祈りを捧げるとか、瞑想してるとか…

色んな答えが返ってきましたが——

ぜーんぶ、嘘っぱちです…♡

夜中に廊下に出てみれば、どのお部屋からも

あん…あん…♡

おほ…おほ…♡

おまんこ寂しいー…♡

おちんぽ欲しいー…♡

いく、いくー…♡

って…♡

えっちな声が、たーっぷり聞こえちゃうんです…♡

シスターはみーんな…

一人寂しく、えっちなおまんこ遊び…してるんです…♡

ごめんなさい…♡

村の皆さんの寄付で建てられた修道院はあ…

女の子がおまんこを弄るための建物、だったんです…♡

皆さんが信仰している教会は、本当は――

淫乱な女の子で埋め尽くされた、

どすけべ女収容所、だったんです…♡

ごめんなさい…♡

えへへ…♡

つい、私のことだけじゃなくて

教会のことまで懺悔しちゃいました…♡

どうですか、お兄さん…？♡

これでもまだ、お兄さんだけが悪いと思いますか…？♡

——えへへ…それどころじゃない、ですよね…♡

私の手の中で、おちんちん、とってもびくびくしています…♡

射精、したいですか…？♡

もちろん、いいんですよ…♡

私の手に、精液、たっぷりかけて、いいんです…♡

お兄さんのえっちな気持ち…♡

私にぶつけて…いいんですよ…♡

射精ください…♡ 精子ください…♡

//無声囁きでねっつっ♡

——私のおまんこに、精子、くださあ——♡

SE：射精

あ――

――うふふ…♡

びゅー、びゅー…びゅる、びゅる…びゅ、びゅー…♡

えへへ…♡

精液、あったかい…♡

射精、気持ちよかったですか…？♡

／＼行目で「正面・密着」へ移動

ん――ふふ…♡ もう…♡

正直になってもいいのに…♡

やっぱり兄さんは、とても立派な方です…♡

／＼ねっとりむちゅむちゅにディープキス

んあ――

――あむんっ…♡

ん、じゅるる、んうっ、ちゅちゅんっ…♡

ん、じゅううっ、じゅる、ちゅずず、んぢゅ…♡

ぢゅうっ、んうっ…♡

んちゅ、ちゅる、んうれう、ぢゅるりゅんっ…♡

んっちゅ、ぢゅづづ、ぢゅむ、ちゅっ、ちゅう…♡

んちゅ、んじゅる——ぷはっ…♡

／＼行目で「正面・中」へ 囁きストップ 話し方をデフォルトに

手についた精液を見てうっとりしながら

えへへ…♡

精液、手にいっぱいかけられちゃいました…♡

／＼手についた精液を舐めて飲み込む

んあ——んちゅっ、れろっ、じゅるるる——

ちゅる——んくっ、はあ、お兄さんの、精液——♡

れろれろ、ん——ちゅぱっ、じゅるる——んくっ

えへへ——♡

精液、美味しい…♡

これが、お兄さんの性欲の味、なんですね…♡

／1行目で「左・密着」へ移動 吐息多めな有声囁き

えへへ…♡

お兄さん♡

今日のこと、神様には、内緒ですよ♡

9

トラック2 終

トラック3

■場所ーお兄さんの家・リビング

／正面・中 囁きストップ

すみません、昨日の今日で、またお邪魔しちゃって

はい

私、シスターとして

まだお兄さんに懺悔しなきゃいけないことが

あるなあって思ってた――

――ふふふ、はい♡

じゃあ昨日みたいに…

失礼しますっ――♡

SE：近づく衣擦れ

／＼行目で「正面・密着」へ移動

指示があるまで吐息多めな有声囁き

お兄さんに密着してほっぺすりすり

——んっ…

えへへ…♡

お兄さんの体、おつきくて安心します…♡

んふふ…んひ、にふふ…♡

お兄さん、今も、私の幼い体で

いけないこと、考えてますか…？

えへへ、そうですね…♡

実は——その気持ち、お兄さんだけじゃないかもしれないんです

——司祭様のこと、です

昨日も言ったように、司祭様は

私達シスターに対して、よく

可愛いねと言ってくださるのですが——

実は、それだけじゃないんです

——はい

カラスト教の修道女となった少女には

絶対の戒律があつて——それがとっても、えっちなんです…♡

聞きたいですか…？♡

って、お兄さんが聞きたくなくても

話しちゃいますけど…♡

／＼行目で「右・密着」へ移動

あまあま媚び媚びな声でゆっくりねっとり話す

トラックの終わり際の指示まで、話す速度はゆっくりのまま

ふふ——♡

実は——修道女は、ある一定の年齢を超えたら

必ず白いおぱんつを履かなきゃいけないんです…♡

そして、ちゃんと純白おぱんつを履いていることを

司祭様に確認してもらわないといけないんです…♡

毎朝、シスターのお部屋に司祭様がやってきて

一人一人丁寧に、シスター服を――

――ぴらっ…♡

戒律のためだからって

シスターは皆、足をパカって下品に開いて

私のおぱんつ見てくださーいって、アピールするんです…♡

――あ♡

安心してくださいね、お兄さん♡

私はまだ、やってませんよ…♡

戒律を課されるのは、

九つから十五の歳のシスターのみ、ですから…♡

八つまでは、あくまで修道女見習い――

九つになって初めて、

一人前の修道女として認められ、戒律を課されるんです…♡

私は、今八つで、明後日が誕生日なんです…♡

どういうことか、わかりますよね…♡

私、明後日から毎朝――

司祭様におぱんつを見せなきゃいけないんです…♡

ベッドに寝転がって、蛙さんみたいに情けなく脚を広げて

処女の証の真っ白おぱんつ鑑賞会…

しなきゃいけなくなるんです…♡

聞いた話では――

司祭様は、おぱんつの確認という名目で

おぱんつ越しにお尻をもみもみしたり…

おまんこのすじをなでなでしたり…するらしいんです…♡

お兄さん、昨日の話、覚えてますか…？♡

シスターは、オナニー中毒のどすけべな女の子だってこと…♡

そんな子が、司祭様におまんこをすりすりされたら――♡

おぱんつ、すぐ濡れちゃうんです…♡

シミどころか、水溜りみたいに

ひたひたにおぱんつを濡らしちゃって

純白おぱんつが、穢れた灰色になっちゃうんです…♡

おぱんつが白くなくなっちゃったら——戒律違反、ですよ…♡

おぱんつを濡らして気持ちよくなってるシスターに

司祭様は言っんです…♡

私の指で、穢れた性器を浄化します、って…♡

どういふことか、分かりますよね…？♡

／＼無声囁き

ドスケベなマンコ汁を垂れ流す雌穴、

俺様が手マンでイカせてやるよ——♡

／＼吐息多めな有声囁き

えへへ…♡

そうなんです…♡

村人の皆様が、畑仕事や朝食の準備をしている頃——

修道院では、司祭様が女の子のおまんこを

いっっぱい、くちゅくちゅ…♡

シスターの殆どは、

司祭様の指で、異性との性交渉を初めて経験するんです…♡

それに司祭様は、しばらく指でおまんこをほぐした後は
穢れを吸い出しますって言って――

おまんこ――ぺろ、ぺろ…♡

中までじっくりねっとり、舐めちゃうらしいんです…♡

／＼無声囁き

こんな風に――

／＼耳舐め

んあ――

はむっ

ちゅる、じゅるる、れうれう、ちゅっ♡

んちゅ、ぢゅづづづっ、ぢゅるるるっ♡

んっんっ、うあれろ、じゅるるっ、ちゅむるるっ♡

んちゅ、じゅっじゅ、んんむっ、れうれう――♡

んちゅる、じゅう、むぢゅちゅちゅ、じゅっる♡

ん、ちゅっ——じゅるるっ♡

んっんっ——れう、ちゅっ♡

じゅるる、れうれうれう、んちゅ、ぢゅっ、じゅるっ♡

——ぷはあっ

／＼行目で「正面・密着」へ移動

指示があるまで吐息多めな有声囁き

ふふ——♡

ショック、ですよ…♡

自分たちが汗水垂らして働いている頃、司祭様は

女の子のおまんこをおもちやにして、遊び放題…♡

でも、それだけじゃないんです…♡

えっちな戒律はもう一つあって、それが——

修道女は、司祭様に性行為を要求された場合、

それは神のご意志であるため、決して断ってはいけない——

——というものなんです…♡

／＼行目で「左・密着」へ移動しながら

意味、わかりますよね…♡

司祭様に命令されたら、いつでもおまんこを差し出して
セックスしなきゃいけないんです…♡

もちろん、ただ司祭様の情欲を満たすためでは
ないんですよ…？♡

修道女は、神より命ぜられた司祭様と性行為を行うことで
神と交わることができる、という教えがあるんです…♡

シスターは皆、イアス・カラストを信仰し、
疑うことなく生きていますから――

みんな、喜んでセックス、してるんです…♡

我らが父のご意志だ…♡

神の子を孕むんだ…って…♡

これも、村人の皆様は知らないと思いますが――

修道院では毎日、どこかのお部屋で――

女の子穴、ずぼ、ずぼ……♡

ぱんぱん、ぱこぱこ……♡

あんあん、いくいく……♡

どぴゅどぴゅ、びゅるる……って……♡

交尾の音が聞こえてるんです……♡

これも、九つから十五のシスター、です……♡

でも中には、司祭様から

神に見初められた者だと言われ、

十六を超えてもセックスを求められる子がいるんです……♡

――はい……♡

簡単に言うと――司祭様お気に入りのおまんこ、です……♡

シスターは、司祭様に気に入られてしまったら最後、

一生司祭様の肉便器なんです……♡

司祭様のおちんちんを気持ちよくして

最高の射精をさせるためだけに、生涯を捧げるんです…♡

私、ずっとこの事を…村人の皆様に、懺悔したかったです…♡

カラスト教は、

司祭様が女の子のおまんこを使うためだけにある、

とってもえっちな宗教だったんです…♡

お兄さん…♡

／無声囁き

おちんちん、苦しそうですね…♡

——ふふ♡

私のおまんこ、触っても、いいんですよ…♡

ううん、触ってください、お兄さん…♡

だって私、このままシスターで居続けられ…

明後日からは、司祭様の肉便器になっちゃうんですよ…？♡

私、好きでも何でもない司祭様よりも…

本当はずっと大好きだったお兄さんに

おまんこ、触って欲しいんです…♡

えへへ、言っちゃいました…♡

はい…♡

私、神に生涯を捧げた身でありながら…

ずっとお兄さんに、片想い、してたんです…♡

お兄さん、すきすき…♡

シスターなんてやめて、お兄さんと結婚したーい…♡

そんなことを考えながら…

おまんこ、いじいじ…♡



触ってくれませんか、お兄さん…♡

私もう、妄想だけじゃ満足できません…♡

修道服を捲り上げて、私のえっちなおまんこ…

虐めてくださあーい…♡

大丈夫ですよ…♡

私みたいな小さい女の子のおまんこを触ったとしても…

きつと、セックスさえしなければ

カラスト教の禁忌には触れません…♡

だから――

SE.: シスター服を捲る衣擦れ

／＼行目で「正面・密着」へ移動

指示があるまで吐息多めな有声囁き

あっ――♡

――えへへ♡

おぱんつ、見られちゃいました…♡

はい…♡

実は、数日前から毎日、純白おぱんつを履いて

一人前のシスターになる準備、してたんです…♡

司祭様におまんこを弄られるのは嫌ですけど、でも――

男の人におまんこ触られるのって

どんな感じなんだろう…って…♡

ちよつとだけなら

おまんこくちゅくちゅされてもいいかもー…って…♡

ほんのちよつとだけ、期待しちやってたんです…♡

でも、やっぱり本当は――

司祭様になんて、私の処女おまんこ、

絶対に触らせたくないです…♡

指一本だって触れさせません…♡

私のおまんこに触っていいのは

この世でお兄さんただ一人なんです…♡

だから、お兄さん…お願いします…♡

私の純潔のすじおまんこ、触ってくださいs――んあっ♡

SE:くちゅー回

は――へへ…♡

生まれて初めて、自分の指以外で

おまんこ、触られちゃいました…♡

SE：浅め手マン

／＼行目で「右・密着」へ移動

手マンされて可愛らしく喘ぐ オホ声ではありません

ううんっ！

んっ…んう…はあっ♡

うやんっ…は、んん…にゅっ♡

はあん…えへへ…気づいちゃいました、か…？ んうっ…♡

おまんこ…んっ…たっぷり…あっ…濡れちゃってる、の…♡

そうです…その、ぬるぬるの、おまんこ汁…んっ…♡

いっぱい…指につけて…んあっ…♡

くにくに、してくだs——んあっ♡

はあ…んやあっ…あふ…んうう…っ♡

お兄さんっ…んはあっ…気持ちい、です…っ♡

んふう…んんっ…好き…すきですっ…お兄さん——っ♡

はあ、はあ——えへへ♡

お兄さん、もしかしておまんこ、触り慣れてるんですか…？♡
外側を撫でられてるだけなのに
自分で触るよりずっと気持ちいいなんて――

／＼行目で「正面・密着」へ移動

――え？

そんなこと、ない…？

初めて――？

ふふ、へへ、えへへ…♡

初めて同士、なんですね…♡

じゃあ、こんなに気持ちいいのは、もしかしたら――

大好きなお兄さんに触られて

おまんこが喜んでるからなのかもしれないですね…♡

ねえ、お兄さん…♡

これ、奥まで触られたらどうなっちゃうんでしょう…♡

お兄さんの大きな手なら、私の小さい指じゃ届かないところ、
きつと沢山弄れちゃうはずです…♡

まだ誰も触ったことがないところ――

私、触られたいです…♡

SE：くちゅー回

//奥まで湯ぼを入れられ、甘くオホ喘ぎ

んう――ンオ…っ♡

はぁ、はぁ、はーっ…♡

えへへ…♡

変な声、出ちゃいましたぁ…♡

おまんこが喜んだ証の、下品な声…♡

お兄さんの指、私よりも太くて、長くて――♡

――もっと私のこと、下品声で、沢山鳴かせてください…♡

SE：奥手マン

//冒頭で「左・密着」へ移動 甘くとろけるような低音のオホ声

ん――んおおっ…おっ…おお…おほっ…おおおおっ…♡

んうおっ…んう…おお…♡

おっお…おおおお…♡

んっ…んっおおお…おっおお…おああ…♡

おおおっ…おっ…んうお…♡

うおおお…う…うあ——んっ…ふうあああ…♡

んっおっ…んおおっ…んぐっ…んごおお…っおおお…♡

んああ…んっ——んお…オツ…んぐっお…おおあ…♡

／＼行目で「正面・密着」へ移動

ねっとりディープキス 合間合間でオホ声が漏れる

はあ、はーっ…

お兄さん…お兄さん…っ♡

んお——はむんっ♡

んっ…んむっ…おんっ…んおぢゅ…っ♡

んぢゅ…んぐっ…んお…んおおっ…んっ…♡

ちゅ…ぢゅるんむっ…ほおっ…♡

ちゅる…ちゅ…おっ…んほお…っ♡

んぢゅ…んっ…んお…んおおっ…ん…っ♡

ちゅ…ぢゆるんむっ…ほおっ…♡

ちゅる…ちゅ…おっ…んほお…っ♡

んっ…んっ…ぢゆる…んっ——ぷはっ♡

〳〵オホ声 絶頂に向けてじわじわ高まってくる

んうっ、んおっ、おほ、おほお…っ♡

すごい、です、お兄さん、おっ…♡

もう私、おおっ、おおんっ、こんなっ、おおおお…っ♡

奥っ、んおっ、奥こちよこちよっ、ふぐっ、んうおお…っ♡

んほお、おっ、おっ、おほおお、おっ…♡

んぐっ、オッ、オッ、オオオッ…♡

あっ、おっ、おっ、おっ…♡

う、う…

〳〵冒頭で「左…密着」へ移動 無声囁き 絶頂に向けてスパート

イク…イク、イクっ…♡

おっ、オッ、おっ、オッ、おっ、オッ♡

んぐっ、オッ、おおごっ、おぐおっ、あおっおっ、いく、イッ…

んっ、オツ、お、オオオオ…~~~~ツ♡

／＼左…密着 吐絶頂 息混じりの有声囁き

余韻オホと痙攣吐息

ンオツ、オツ、お、オオオオ…~~~~ツ♡

あ、うあ、お、あ——

はあ、はあ、はあ、はああ——っ

ふー、ふー…かひゅ、ふうう…

ぜえ、ぜえ、ぜえ、ぜー…

ん、う…あ、あ——

ふあああ…♡

／＼メロメロであまあまなかんじで

えへへ…♡

おまんこ、イっちゃいましたあ…♡

お兄さんの指で、おまんこ、たっぷり愛されちゃいましたあ…♡

お兄さあん…♡

私のお願い、聞いてくれてありがとうございます…♡
おまんこ、たっぷり虐めてくれて…
ありがとうございましたあ…♡

5
トラック3 終

トラック4

■場所ー 真夜中・お兄さんの家・玄関

SE: 玄関ドアノック どんどん何回も

SE: 玄関まで歩く↓ドア開ける

//正面・中からスタート

1行目で、真夜中にも関わらずドアが開いたことに安心

2行目でお兄さんに抱きついて「右・密着」へ移動

移動後、有声囁き

——っ！

お、お兄さんっ！

SE: 抱きつく、ぐゅっ

お兄さん、お兄さぁん…っ

ごめんなさい、またこんな時間にお邪魔しちゃって…

でも、でも、私…っ

／＼行目で「正面・中」へ移動 囁きストップ

あ——す、すみません…

私、眠れなくて…

／＼「何があったの？」と聞かれて 『境界の刻』は午前0時です

何があった、って——

——朝が来るのが、怖くて…

…だ、だってっ——

今日、境界きょうかいのいしの刻を超えたら

私、九つになっちゃうんですよ…

明日の朝、目が覚めたら、

司祭様のおぱんつチェックが始まって…

おぱんつ越しに、おまんこ…なで、なで…

濡れてきちゃったおまんこを、奥まで…くちゅ、くちゅ…

最後には、神のご意志だからと——

ぱこ、ぱこ…ぱん、ぱん…って――

司祭様に、とってもとっても大事な処女膜を

捧げなくちゃいけないんです…っ

明日から、司祭様の性欲処理用の

おまんこおもちゃにならなきゃいけないんです…

私…私――ッ

SE：リタからお兄さんにくっつく

／／お兄さんに近づいて「正面・密着」へ移動 有声囁き

――っ！

い、嫌、ですう…っ

私、昨日までは、男の人におまんこ触られてみたい、って…

えっち――セックスも、してみたいって…そう思っていたので…

初めての相手が司祭様でも、仕方ないかなって――

別にいいかなって、思ってたんです…けど――っ！

昨日の夜、お兄さんに――大好きなお兄さんに

おまんこ、沢山愛してもらって

私、やっと気付きました…っ

おまんこは、きつと――

好きな人に、愛情たっぷりに虐めてもらわないと

気持ちよくならないんです…っ

私もう、お兄さん以外の男の人に

おまんこ、触られたくないです…っ

司祭様に――あ、あんな、

ぶくぶくに太った脂塗れの気持ち悪いおじさんに…っ

処女、あげたくないです…っ

村人の皆さんの善意につけこんで…

寄付の名目でお金を巻き上げて――

そのお金を使って、幼いシスターとえっちなことばかりして、

あんな最低な人と…セックス、したくないです…っ

――シスター、辞めたいです…っ

教会、抜けたいです…っ

SE：抱きしめる

／＼行目で抱きしめられて「右・密着」へ移動

その後しばらく耳元で呼吸

私——ひゃっ！

あ——ん…

…

／＼行目で「正面・密着」へ移動 淡くディープキス

ん——

んあ——あむんっ

ん、じゅるる、んうっ、ちゅちゅう…♡

ん、じゅううっ、じゅる、ちゅずず、んぢゅ…♡

ぢゅうっ、んう…♡

んちゅ、ちゅる、んうれう、ぢゅるりゅ…♡

んっちゅ、ぢゅづづ、ぢゅむ、ちゅっ、ちゅう…♡

んちゅ、んじゅる——んえあ——♡

//指示があるまで吐息多めな有声囁き

…えへへ♡

おっきくなってますね、お兄さん…♡

嬉しいです…♡

—ふふ♡ はい…♡

この幼い体でお兄さんが勃起してくれるの、

私、とっても嬉しいんです…♡

—寝室…連れて行ってくれませんか…？♡

■場所 | 真夜中・お兄さんの家・寝室

//ディープキス さつきより激しく フェードインします

ん、じゅるる、んうつ、ちゅちゅん♡

ん、じゅうつ、じゅる、ちゅずず、んぢゅ♡

ぢゅうつ、んうつ♡

んちゅ、ちゅる、んうれう、ぢゅるりゅん♡

んっちゅ、ぢゅづづ、ぢゅむ、ちゅっ、ちゅう♡

んちゅ、んじゅる——んえあ——♡

えへへ…さつきより、激しいです…♡

ベッドもふかふかで、あったかくて——

——シチャうんですね、私達…♡

もしかして…罪悪感、あるんですか…？♡

教会の教えに叛くなんて、って——♡

——ふふ…大丈夫ですよ…♡

私、両親に言われるまま修道女になりましたけど…

神なんて、信じたこと、ありません…♡

辛いときに助けてくれたり、心を満たしてくれたり——

それを神様と呼ぶなら…私にとっての神様は——

お兄さんでしか、ありえません…♡

この身を捧げるなら、お兄さんが、いいんです…♡

SE：服を脱ぐ・脱がす 衣擦れ

ん…っ♡

あ…ふ、ん…っ♡

えへへ…♡

お兄さんのおちんちん…もう先っぽから我慢汁がこんなに——♡

私のおまんこは、もうシーツに垂れちゃうくらい濡れてて——♡

お互いもう、やる気満々、ですね…♡

おちんちは、おまんこに入りたいよ…って…♡

おまんこは、お兄さんに犯されたいよ…って——♡

SE：くちゅー回

んあ…っ♡

——えへへ、いいんですよ…？♡

そのまま、奥まで——

…おちんちん、ください——♡

SE：挿入

／オホ声 下品に濁音・低音で

あ、う、あっ…くっ、う——入ってく、る——ん、お——ッ
んっ、オッ、んぐっ、オッ、おおお…ッ♡

はあ、はあ…は——♡

っ…へ、へへ…♡

入っちゃいました、ね…♡

どう、ですかあ…？♡

処女喪失、おまんこ…♡

一生を、っ…お兄さんに捧げます…って——

お兄さんだけの、は——っ、シスターです…って——

誓いを立てた、純潔おまんこ…♡

気持ちいいなら——そのまま…動いて、いいんですよ…♡

SE：JUSTONゆっへり

／一行目で「左…密着」へ移動 オホ声・可能な限り下品に

んおおッ……♡

あつ、オツ、ンオツ、オツ…♡

お兄さんの、おつ、ちんぽ…オツ…♡

んおつ、オツ、ングオツ、オオツ、あおつ、オツオ♡

オツほ、んっおつ、オオオツ、んっ、オツ、オオオツ…♡

おつ、おつ、おおつ、んおつ…オオオ…♡

おツ、んおつ、おつ、オオオツ…♡

好き、です、おツ…♡

お兄さ、おつ、すぎ、このちんぽ、好き…っ♡

オツ、オツ、あおつ、んおつ…♡

きもち…気持ちいい、ですっ…♡

オツ、オツ、んおつ、オオツ…♡

おつ、んおつ、オツ、おつ…♡

んぐっ、ほおおお…♡

おつ、あおつ、ンツ、オツ、オオオ…♡

ふぐっ、うっ、オツオツ…あつ、んっ…

SE…ピストン緩やか←

／＼冒頭で「正面…密着」へ移動

はー…はー…♡

お兄、さん…♡

もしかして——遠慮、してますか…？

ふー…ふー…

ふふっ…♡ 誤魔化したって、バレバレ、です…♡

そんなに…ぎこちなく腰を振って——♡

はあ、はあ…♡

怖がらなくて、いいんですよ…？♡

／＼「右・密着」へ移動しながら

だって、私——

／＼右・密着 あまあゝく無声囁き

おまんこほじほじするのが大好きな…

どすけべシスター…ですから…♡

私のロリまんこ…とっくにとろとろに溶けちゃって——

もっと激しくしてくださいぁーい…っておねだりしちゃう—
えっち穴に…なっちゃってるんですよ…♡
だから…もっと激しくしても—

〓吐息多めな有声囁き

—ん…っ？

お兄さんのおちんちん…おまんこの中で…大きく—
んっ…ぁ—ッ

SE::ピストン速め←

〓右::密着 オホ声・可能な限り下品に

んおっ♡オッ、んおっ、オッ、オッ…♡

お兄さ、んおッ、んっ、激しっ…♡

おごっ、ほっ、ンッ、オッオオオッ…♡

ぁおっ、オッ、んおっ、オッ…♡

おっ、オッ、ンオッ、オッ♡

んぐっ、オオッ、ぁおっ、オオオッ…♡

せつくす、こんな、おっ、オッ、オオオオッ…♡

だめ、ですっ…♡

こんなの、私、おっ、すぐイッちゃ——ンオっ…♡

オッ、オッ、んおっ、オッ♡

んぐっ、オッ、オッ、オオオッ…♡

あっ、おっ、おっ、おっ…♡

う、う…

／＼右…密着 無声囁き 絶頂に向けてスパート

イク…イク、イクっ…♡

おっ、オッ、出して、くださいっ…♡

私の、中に、んぐっ、オッ、オッ…♡

精液、ぴゅっぴゅ、中出し、中出しっ…♡

おっ、オッ、おっ、オッ♡

んぐっ、オッ、おおごっ、おぐおっ、あおっおっ、いく、イッ…

んっ、オッ、お、オオオオ…~~~~——ッ♡

SE..射精

／＼右..密着 吐息混じりの有声囁き

絶頂↓余韻オホと痙攣吐息

ンオツ、オツ、お、オオオオ…~~~~ツ…♡

あ、うあ、お、あ——

はあ、はあ、はあ、はああ——っ

ふー、ふー…かひゅ、ふうう…

ぜえ、ぜえ、ぜえ、ぜー…

ん、う…あ、あ——

ふあああ…♡

SE..衣擦れ

／＼冒頭で「正面..密着」へ移動 指示があるまで吐息多め有声囁き

えへへ…♡

お兄さんの精液…子宮に沢山、流し込まれてます…♡

中出し…ですね…♡

あったかくて、幸せです…♡

はー…はー…♡

お兄さん…まだ…終わらない…ですよね…？♡

／＼行目で「左…密着」へ移動

教えに叛いたため、もう教会にはいられないと自覚し、

これからの不安を覆い隠すように、激しいセックスを求める

えへへ——♡

——もっと…セックス、してください…♡

だって今日は——

お兄さんと私が繋がった、初めての夜…なんですよ…♡

教会も、両親も、友人も、全部を裏切って——

破瓜の血を流した、祝福の日なんですよ…♡

だから——

／＼左…密着 無声囁き

もっと、私のおまんこ…犯してください…♡

もっと——種付け射精…してください…♡

そして——忘れさせてください…♡

教会のことも、これからのことも、全部…♡

今だけは、全部忘れさせて——

…んっ…う…っ

あ——おちんちん、またおつきく…

あっ、う…

SE…ピストン中速←

／左…密着 無声囁き オホ声・可能な限り下品に

オツ、ンオツ、アオツ、オツ♡

お兄さ、んオっ、激し…オツ、オツ、んおっ、おお…♡

ングオツ、オホッ、オツ、オツ、

んうおお、おっ、オツ、オツ、オオオ…♡

ふぐっ、うおっ、んおっ、オツ…♡

いいっ、おツ、いい、ですっ…♡

激しく、される、のっ、オッ、好き、です…っ♡

おっ、んおっ、あおっ、オッ…♡

んぐおっ、オッ、オッ、んっおおお…♡

おっ、おっ、好き、好きっ…♡

おっ、あおっ、ンオッ、ングオッ、オッオ…♡

おおおお…おっ、おおお…ッ♡

ンッ、オッ、オッ、お…♡

ふっ、んっ、うっ、うっ…♡

SE…衣擦れ

／＼行目で「正面…密着」へ移動 吐息混じりの有声囁き

フー…フー…ッ♡

んあ——

／＼キスしながらもピストンされて吐息とオホ声が漏れ出る

ちゅっ、ちゅむっ、ぢゅう…ンッ…♡

ちゅっ、ぢゅっぢゅうう…ふー…ふー…

ぢゅるるっ、ぢゅづづっ、ちゅっゅうう…おっ…♡

ちゅっ、ぢゅっ、ンンッ…んぐっ——ぶはっ♡

はー…はー…♡

//無声囁き ピストンは続いています

お兄さんっ…お兄さん——っ♡

好き——好き、です…っ♡

もっと、激しく——壊れるくらい——してほしいです…♡

はー…はー…♡

んっ、う…ッ…♡

SE::ピストン速め←

//冒頭で「右::密着」へ移動 指示があるまで吐息多めな有声囁き

ンオッ、オオオオッ…♡

おごっ、ホオッ、んぐおっ、オアッオッ、んっ、オッ♡

おうおっ、オオオ…ッ…ほっ、ンオッ♡

オッ、ンオッ、オッ、オッ、オオオ、オッ…♡

んっ、オオオッ、あおっ、オオッ、んぐっ、オッおおッ♡

おまん、このっ、行き止まり、をっ、オッ♡

パンパン、ちんぽ、ぱこぱこ、って…♡

攻められて、ます…っ♡

お兄さん、オッ、オッ…♡

私、頭、真っ白、でっ…♡

何も、考えられ、な、おっ、オッ、オッ、おおおお…ッ♡

イ、イきたい、です…っ♡

一緒に——お兄さんと一緒に…っ♡

最後、イきたい、です…ッ♡

オッ、オッ、んっ、フーッ、フーッ…♡

だから、最後まで、一番激しいの、で——

んっ、うア…ッ

SE…ピストン激しく速く←

／＼右…密着 クライマックスの下品な甘オホ

オツ、ンオツ、オオオツ、オツ♡

んぐおつ、ホオオオオツ…♡

オツ、オツ♡

んおつ、オオオツ♡

オツ、オツ、んぐっほっ、オツ、オオオオ…♡

お兄さんっ…お兄さん——ツ♡

おつ、オツ、オツ、あおつ、ンツ、オオオ…♡

私、もう、もう——限界、ですっ…♡

おまんこ、もう、無理、で——んぐオツ♡

おつ、オツ、あつ、んっ…♡

オツ、おつ、おつ、んっ、うっ、お♡

オオオオツ、オツ…♡

／冒頭で「正面…密着」へ移動 無声囁き

絶頂に向けてラストスパート

オツ、んおつ、オツ、オツ…♡

好き、好き、大好き…ですっ♡

おっ、あおっ、オツ、ンオツ、オツ…♡

はうっ、うっ、おっ、んっ♡

このまま、奥、一番奥、に、精液…くだ、さいっ…♡

おっ、オツ、ンオツ、オオオオオツ…♡

イク、イクっ、イクっ♡

んおっ、おおっ、んぐおっ、おっお、

あおっ、オツ、んっ、う——

オツ、んぐっ、お、オオオオオ…——ツ…♡

SE..射精

〓正面…密着 吐息混じりの有声囁き 絶頂

絶頂↓余韻オホと痙攣吐息

あぐっ、オオオ——…んっ、オツ、オオオ——…♡

は、が、ひゅっ——♡

ふうう、ふ、ふうう…♡

ぜえ、ぜえ、ぜえ、ぜええ…♡

うあ、あ…んう、うっ…♡

はあ、はあ、はあ、はあ…♡

あう、う、うう、んっ、んあ、あ――

あ…ふ、ふああああ…♡

／＼正面…密着 吐息多め有声囁き

はー…はー…♡

ごくっ…ふー…ふー…ふ、うう…♡

はあ、はー…えへへ…♡

私達、動物さんみたい、でしたね…♡

SE：抱きつく

／＼行目で「左・密着」へ移動

んっ――

えへへ…♡

ぎゅっ…です…♡

ずっとこうしてたいくらい…胸が、ぽかぽかします…♡

幸せ、です…♡

//しばらく呼吸

…

…

私、どうなるんでしょう…これから…

もう—もう、教会には…戻りません

教会を信仰する両親の元にも—帰りません

私—

—え…？

何ですか、お兄さん…

—提案、ですか…？

…

これからの、こと—？

トラック5

■場所 | 馬車の上・深夜

SE: ガタゴト走る馬車

／正面・中 指示があるまで位置固定

別の街で暮らそうというお兄さんの提案を受け入れた

夜にうちにお兄さんと共に村を出て、馬車に乗っている

『妖魔の刻』は午前2時頃です

こんな深夜でも、乗せてくれる馬車があるんですね

ようまのこく

妖魔の刻なんて…いつもならとくに眠りについてますし――

私、本当に…この世界のこと、何も――

――何も、知らなかったんですね

はい…

私、故郷を――シラルト村を出たことがなくて…

／『ライセンスニア』の発音は『ポインセチア』と同様です

情報都市、ペントローサ――

大都市と聞いていますが

どんな所なんでしょう…

…

私達本当に、出てきちゃったんですね…

村を抜け出して――夜逃げ、しっちゃたんですよね…

いえ、お兄さんは悪くありません！

村を出て、遠い街で、二人で暮らす――

その提案に乗ったのは私ですし、後悔なんてないんです

ただ――これからどうなるんだろうっていう期待と…

それから――やっぱり、不安で…

だって、お金と最低限の衣服くらいしか

鞆に詰め込む時間はなかったもので…

それに、私の歳では、働くことも――

SM.. お兄さんが懐から写真機を取り出す衣擦れ

—ん？

それは—機械、ですか？

—写真機…？

え、えと、しゃしんき、とは、どいう物なんでしょう…

はい…はい—

遠い街の、行商の方から買ったんですね

それで—はい…

景色を、絵のように切り取る—!?

す、すごいです、そんな物が…!

はい…はい—

な、なるほど…

そうして作られた絵を、写真、というんですね

ということは、教会の写真も、その機械の中に――？

――え？

その教会の写真が、お金になる――？

んう…？

私にはちょっと難しくて、意味がよく――

SE：抱きしめられる

／＼行目で抱きしめられて「右・密着」へ移動

吐息多めな有声囁き

――はうっ!?

あ――へへへ…♡

あったかいです、お兄さん…♡

…

はい…♡

きっと大丈夫、ですよね…♡

それに、これから先、例え何があっても――
私が、お兄さんにこの身を捧げたことだけは
ずっと――絶対に…変わりません…♡
お兄さんと私は、ずっと一緒です…♡

／＼最後の方は力無いふにやふにやな声になりながら眠りにつく

だから、少し――休んでも、良いですか…？

はい…

少し、眠くなってきました…

だから、このまま…お兄さんの肩で――

／＼しばらく呼吸

…

…

トラック6 後日談

■場所ー新しい家・寝室

SE：小鳥の囀り。jump

SE：寝室ドア 開

//「正面・遠」からスタート 1行目で「正面・中」へ移動しながら

お兄さんっ♡ 朝ご飯の時間ですっ♡

私と一緒にリビングに——って…

お兄さん、まだ、寝てる…??♡

もう、仕方ないですね——♡

//1行目で「左・密着」へ移動 無声囁き

んふふ——♡

お兄さあーん…♡ 朝ですよー…♡

起きてくださあーい…♡

//トラック終わり際まで吐息多めな有聲囁き

——あ♡

起きましたか、お兄さん…？♡

えへへ…ねぼすけさんなんですから…♡

SE.: お兄さんがリタを抱きしめる

ひゃうっ！

あ——えへへ…♡

お兄さん、いきなりそんなにぎゅーってしちゃって…♡

——へ？

私が、可愛いから——？

も、もう、えへ、えへへ…♡

いつからそんなに□が上手なお兄さんになっちゃったんですか、
全く、ふふ…♡

そんなお兄さんには…私も、お□でお返し、しちゃいます…♡

／＼行目で「正面・密着」へ移動

えへへ…♡

おちんちんがおつきくなってるの、バレバシですよ…♡

朝なのに、とっても元気なんですネ…♡

かちかちで、下着を押し上げて——♡

このままじゃ、お仕事に行けないですよネ…？♡

SE：脱がす衣擦れ

／＼ズボンを脱がす↓大きさにぴったり

ん…しょ、ん——っ

あ——♡

えへへ…おつきい…♡

それに、この匂い…♡

ふふ…♡ 昨日の夜、いっぱいえっちして

そのまま寝ちゃいましたから——♡

えっちの匂いが、いっぱいしちゃってます…♡

お口でいっぱい舐め取って…綺麗にしちゃいますね…♡

//浅めの優しいフエラ

んあ——はむっ

あちゅっ…ちろっ、ペろっ、んちゅ、ちゅっ…♡

んちゅ、ちゅっ…れう、じゅづづっ、ぢゅるるっ♡

んっちゅ、ちゅむっ…じゅ、んっう…♡

んちゅ、れろ、ちゅぱあ——♡

はあ、はあ——えへへ…♡

おちんちん、ぴくぴくしてます…♡

気持ちいいんですね…♡

起きてすぐおちんちんしゃぶってもらえるの…

幸せなんですか…?♡

ふふ——♡

//フエラ深めに奥まで丁寧

んあ——

んっちゅ…じゅるるう、んぢゅちゅ、ぢゅずずっ…♡

じゅるる、んちゅぢゅ、れうれうぺろぐぢゅっ…♡

んっんっ…じゅるる、んうっ、れうちゅぶぐぶちゅ…♡

ふふ…先っほから、じゅる…♡

あったかいお汁、出入きへ、ちゅぶ、ますよ…じゅる…♡

お口ご奉仕が、んぢゅ、気持ちよくへ…んむ、ぐじゅるる…♡

我慢汁、じゅぶ、止まらない、ねすね…んえあろ、ぢゅづづ…♡

んふふ…ぢゅづづづゅ——♡

我慢、じゅむ、しなくていい、ぢゅ、ですよ…んぢゅう…♡

激しくします、んっ、から…んじゅるる…♡

いつでも、えある、らひていい、じゅむ、ですよ…んじゅむ…♡

ぢゅるるるづづづゅゅる——♡

//奥まで啜えて激しく頭振ってノーハンドでフェラ

絶頂に向けてスパート

んっ、んじゅっ、んぐぶっ—♡

じゅぼっ、じゅぶっ、じゅっ—♡

ぢゅっ、ぢゅるる、ぢゅっぢゅっぢゅづ、ぢゅづ、ぢゅづ、ぢゅづー！♡

ぶぐ、じゅじゅ、じゅじゅ、じゅぢゅ、ぢゅ、ぢゅ、ぢゅづー！♡

んぐ、じゅむ、むぐ、ん、んづ、ぐ、づー！♡

ん、いいれす、じゅる、ゆ、ひ、じゅづー！♡

精子、ぢゅっぢゅっ、ひて、んじゅっ、ゎはっ♡

んじゅ、ぢゅ、ぢゅっ、ぢゅ、ぐ、じゅほっ♡

ん、じゅ、ぢゅっ、じゅっ、ん、づ、づ、づー！♡

SE：射精

／＼行目で射精

二行目以降は精液をごっくん

↓バキュームで吸い出してもう一回づっくん

ん——っ！

んぐ、んぐ——ぐ、ぐ、ぐ——

ぢゅうう——んちゅう——

ぢゅずずず——ぢゅるる——

ぐぐ、ぐぐ——ん

んっ——ぷはうっ

はあ、はあ——んくっ、はあ…

／息を整えた後、
「右・密着」へ移動

——はあ、は——はあ——ふふっ♡

気持ちよかったですか…お兄さん…？♡

もう、えへへ…♡

じゃあ——もう少しだけこのまま…

ぎゅって…してましようか…？♡

——え？

お仕事に、遅れちゃう、から…？

あ——えへへ…♡

もう、そんなに時間が経ってたんですね…♡

ごめんなさい、私、お兄さんのおちんちんに夢中で、つい——♡

ん…じゃあ——

／＼耳に優しくキス

——ん——ちゅ

——んちゅ、ちゅる、ちゅ、れうれう、んちゅ——

——えへへ…♡

今は、これだけで我慢、です…♡

／＼行目で「正面・密着」へ移動

だって今日は——大事な日、なんですよね？

シラルト村のことを——教会の闇を暴いた記事が

世に出回る日、なんですよね…？

…ふふ、大丈夫です

怖くなんてありません

——教会から逃げた私に、怖がる資格なんてありません

むしろ、お兄さんには感謝しています

こっちに来てすぐに、新聞社に入って、

教会のことを記事にするために頑張ってくれて――

カラスト教のことを多くの人が知ってくれれば

あの教会も、もう存続できなくなるはずです

そうすれば――

――今後シラルト村で生まれる女の子は皆、

普通の女の子として、生きられるはずですから……♡

えへへ――♡

お兄さんは、沢山の女の子を救ってくれたんです……♡

やっぱりお兄さんは――神様、なのかもしれないですね♡

だから――私はせめて、ここで祈ります

お兄さんの書いた記事が、シラルト村を変えてくれるように――

お兄さんと私が、これから一緒にいられるように――

だって私は――お兄さん専属の、シスターですから♡

